

### 1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2072501204		
法人名	有限会社 大島		
事業所名	グループホーム いきいき		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島5274-22		
自己評価作成日	平成27年9月28日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=20725012_04-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=20725012_04-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成27年11月24日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>東西に山を眺め、自然に囲まれ移りゆく季節を利用者様と楽しみ、地域の方々と共に生活しております。木のぬくもりを感じることでできる建物で屋内も家庭的な構造となっております。利用者様のその時その一瞬が心穏やかで楽しいひとときの積み重ねとなりますようスタッフ一同心がけております。</p>
---

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>グループホームを訪れると、利用者と職員のとでも明るい笑顔に迎えられ、いつの間にかその一員となってしまうかのようである。利用者調査でも「職員は生き生きと働いているようにみえますか」という項目に、全ての職員が生き生きとしている、と評価され、自己評価でも「ほぼすべての職員は、生き生きと働いている」と評価しているように、モチーでもあり、このグループホームの名前でもある「いきいき」の理念が利用者や職員の間浸透している結果であると思われる。                  このことは、次のような日常生活の中からも伺うことができる。10時のおやつ時間、昼食後の休憩の時間、3時のおやつ時間、そして4時のテレビ視聴の時間には、利用者と職員は一緒になって食べたり、歌ったり、話したり、テレビを楽しんだりして、ともに過ごす時間を大切にしているのである。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。**

ユニット名( )		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目のつく場に貼って確認できるよう、また毎月の職員会にて全員で確認する機会を設けるようにしている。	理念を基にした「ずーとあなたらしく、ずーといつまでも、ずーとわがままに、ずーといきいき」というモットーは分かりやすく、職員の間浸透している。「職員が行えば早くできるが、利用者と共にすることで利用者からいろいろな知恵を頂いている」という管理者の姿勢がよく反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事(ふれあい広場・夏祭り・どんど焼き・節分)に参加したり、ボランティア(日赤奉仕団・中高福祉体験・地域の演芸の方)の方々に来ていただき交流している。	理念に掲げているように、地域との交流を積極的に行っている。利用者はふれあい広場や夏祭り、どんど焼きに出かけたり、職員は中学校、高等学校、短期大学の福祉体験や実習などをプラスアルファになることと考え、当たり前のように対応したりしている。また、ディサービスを実施して、グループホームの利用者とも親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流できる折に説明を行い、理解を得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、評価への取り組み状況を報告し、意見をいただいたことは職員間でも共有できるようにしている。	年6回開催してきた運営推進会議は、これまでの連絡・報告中心の会議の内容から、本年度初めて避難訓練を見てもらい、その様子を話し合った。このように運営推進会議の話し合いの内容を見直し、サービスの向上に活かしてきている。	運営推進会議の記録を工夫して残し、今後活かしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡を取ることができている。運営推進会議以外でも報告を行ったり、アドバイス等を受けている。	町の担当者には運営推進会議に出席してもらい、いろいろなアドバイスをを受けたり、毎月発行の「いきいき便り」を見もらったりしている。また地域の研修会に参加しているいろいろな場での協力関係を築いてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルはいつでも確認できる場所におき、職員間でも話し合っている。玄関は夜間のみ防犯のために施錠している。	マニュアルが備えられており、転倒防止のための車椅子のシートベルト使用については家族の了解を得て実施している。徘徊する利用者は今のところいないが、万一の場合の連絡方法などを検討していきたい。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常にケアについて職員間で注意を行い、職員会でも話し合うなど防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、職員間での報告を行い、話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際からご家族と話を行える機会を設けている。契約の際にも十分な説明を行い、ご理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしたり、運営推進会議へ参加していただいたりして意見をいただいている。出た意見は職員間で共有し検討している。	ご意見箱からは利用者や家族からの意見は出ていない。運営推進会議に参加している家族代表からの意見については、職員間で検討している。利用者調査の意見については、その対応を検討し、利用者や家族に知らせていきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で機会を設けたり、気軽に意見を出せる時間づくりをしたりして、運営・業務に反映させている。	月1回の職員会とケアカンファレンスでは司会や記録を職員の持ち回りにして、職員が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、職場の研修会では担当者が資料を持ち寄って説明し、話し合いを盛り上げている。朝の引き継ぎ時、昼食後の休憩時、晩の引き継ぎ時などに職員と話す機会を多く作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況は常に把握しており、日々職員とコミュニケーションを取り、気軽に話を行えるよう努め、働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際を把握し、必要に応じて研修への参加の機会を設け、施設内での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にて他同業者と交流する機会があったり、他グループホームとの相互訪問等を行ったりして、そこでの学びを職員会にて報告、改善すべきところがあるか話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりご本人の状況の把握を行っていき、入所時にご本人の意見を大切に希望・要望に添い、安心して暮らせる場所になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご家族との話し合いの場を設け、意見を伝えてもらったり、現在の介護の状況について話していただき関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際など、その時々に合わせて支援を行えるよう、職員間で話し合いを行う。様々なサービスの利用も視野に入れ検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々介護する立場という意識ではなく、共に生活をしているということを大切に、家事や食事を共に行い、支え合いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのつながりを大切に保てるよう、ご本人の様子を毎月の手紙・新聞(いきいき便り)にて様子を伝えたり、面会のあった際にはご本人を交えお話ししたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた場に出かけたり、馴染みの方が気軽に訪ねて来ていただいたりできるよう、施設内の雰囲気づくり、関係を大切にしている。	利用者には生家や実家に出かけてもらったり、家族とお墓参りに出かけてもらったりして、これまでの関係を大切にされた支援を行っている。また、家族や親戚の来訪、馴染みの方の来訪には、利用者の希望により居室やリビングで気兼ねなく過ごしてもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の暮らしに合わせてながら、共有空間を活用し、利用者様同士で落ち着いた雰囲気に関わり合いができるよう、職員からの声かけや場所づくりに努めている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院のお見舞いや、葬儀へ参加したりしている。ご家族にお会いし、様子をうかがう機会もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の希望や意見に耳を傾けることを大切にしている。	利用者一人ひとりの思いや希望については、「状況提供書」を基にして職員間で共有している。また日々の生活の中で、職員が利用者と一緒に過ごす時間(10時のおやつ・昼食後の休憩・3時のおやつ・4時のテレビ視聴)を大切に、そこで聴き取ったことを「個別日誌」に書き留め、共有できるようにしている。	「個人日誌」へは、利用者の言葉をそのまま記入したり、記入内容を色分けしたりして工夫すると、さらにより記録になり、利用者理解が深まると思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より面談やご家族からのお話にて把握し、常に職員は確認し、書面やご本人の話から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌を記入し、朝・昼・晩・随時引き継ぎを行い、常に状況の把握を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会にてケアプラン実施の経過・状況の報告・評価を行い方向を決定している。	利用者一人ひとりの状況や思いを「個別日誌」で把握したり、「ケアプラン実施状況及び評価」でモニタリングを行ってりして、ケアカンファレンスを通して適切な介護計画を立てている。具体的な課題を基に、利用者の思いを表わした目標作りを目指したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日実施の評価を行い、記録をつけ、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な場面において、その時必要な支援を行えるよう、かかりつけ医や家族との連絡・相談を密に、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域での暮らしを実感し、楽しむことができるよう、外出などの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一度のかかりつけ医の往診あり、何かあればすぐに対応して下さっている。ご本人・ご家族の希望や、身体状況に応じ、通院を行う方もいる。	毎月1回、かかりつけ医の往診があり、利用者は全員診てもらっている。そして、終末期への対応についても相談ののってもらっている。また、利用者の身体状況に応じ、歯や糖尿病・精神病の受診等も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時状況の報告・相談をし、指示を受けている。毎月の職員会でも指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、状態や退院の話合いをこまめに行ったり、病院へ出向き情報交換や相談に努めている。ご家族からも随時ご本人の様子を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期、看取りについての希望をご家族と話すことができ、職員も把握することができる。	利用者の介護度が高くなり、現在車椅子使用5名、歩行器使用1名である。利用者の状態により、かかりつけ医と家族等で終末期についての話し合いを行い、看取りができるように支援している。本年度は退所してから病院で亡くなられた方は1名あったが、看取りの事例はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の連絡マニュアルにて対応している。定期的に確認を行ったり、消防署の方にお願ひし、訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の日程に合わせ避難訓練を職員・利用者様・地域の方含め全員で行っている。地域の方との確認を行うことができる。	年2回の避難訓練を計画し、今年の9月には広い敷地への避難訓練の後、運営推進会議を開催し話し合った。普段からコンセントや消火器などの点検をしたりしている。また、ヘルメット・防災頭巾を準備し、2週間分の非常食も準備し、災害に備えている。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人一人の人格を尊重し対応するよう努めている。職員間でも注意しあい、目上の方という意識を忘れないよう対応している。	利用者は人生の大先輩として、常に教えて頂くつもりで丁寧な態度で接している。排泄の時などは、気持ちを損ねないように小さな声かけをしている。また、物事を決めたり、行う時でも利用者と職員とが一緒に考え、利用者自ら決められることができるような声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴、価値観を大切に、何気ない日常の中で希望を口に出せるような声かけ、対応、雰囲気づくりに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その時々希望を伺い、その気持ちに寄り添えるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際、朝の起床時、服の選択など本人の希望を伺い支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の献立もその日の利用者様との会話の中で決定し、家事手伝いをお願いし、一緒に準備・片付けを行っている。	献立は、その日の材料を中心に利用者と一緒に決めていく。管理栄養士に献立を見てもらい、利用者にあつた栄養バランスを考えている。利用者の状況に応じて、いろいろな準備や後片付けなどを一緒に行っている。重度の利用者にも味見などをしてもらい、全員が食事作りに参加している、という意識を持つよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事・水分の摂取量のチェックを行い、毎月職員会にて確認し、食事形態や摂取状況の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、見守りや介助を行っている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体の状況により、オムツ使用の方もいらっしゃるが、その方の行動・排泄パターンを知り、トイレで排泄を行える方は声かけや誘導を行っている。	利用者に応じてオムツやいろいろなパンツを使用している。オムツ使用の方が多いが、パット対応で費用を抑えるとともに、毎日の排泄チェックを行い、適切な言葉かけやトイレ誘導によって、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、パターンを知り、便秘の方には何が原因となっているのか検討し、できることはないか予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めることはせず、随時入浴希望を伺い、希望に合わせ入浴を安全に楽しんでいただけるよう支援している。	週2回くらい、時間を決めずに入浴できるようになっているが、利用者の希望によっては毎日入浴できるようにもなっている。2坪ほどの広い浴室に、車椅子対応のリフトが備えられており、職員の身体の負担軽減に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の今までの生活に合わせた対応を行っている。夜は安心して入眠できるよう、スタッフや利用者様とでゆっくりした時間を作ったりして過ごしていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や薬効を薬局からの処方内容の用紙に目を通し、常に確認できるようにしている。状態の確認を行い、随時主治医に相談もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の今の生活での楽しみを知り、毎日笑顔が見られるよう声かけや支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、身体の状況等を考慮し、外出することができるよう努めている。	普段は、グループホームの広い敷地内の散歩に少しでも出かけられるように声かけをしている。屋内では毎日、手・足・首・口の体操をして体調を整えたり、カラオケを歌って気分転換を図ったりしている。また、花見や紅葉狩りをしたり、そばなどの外食に出かけたりして、遠出も楽しんでいる。	



グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や状況に合わせ、所持・管理・使用ができるよう、支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話ができるようになっており、手紙も書いたものはポストへ投函できる旨伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のため、彩光や温度・音などに配慮し、落ち着いた空間になるよう気を配っている。また、季節の花や作品を飾る等、季節感を感じていただけるよう心がけている。	玄関に入ってすぐ広い廊下、そして台所と広い居間兼食堂、その脇に和室があり、また広い廊下が続いている。木の温もりが感じられる共有空間には、利用者の作品が所狭しと飾られ、それを彩るように草花や写真が飾られている。とてもゆったりとしているので狭苦しさを感じさせず、かえってその中で生活している利用者や職員の心の豊さを感じるかのようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話できる場所づくりを行ったり、自分の居場所を持てるような声かけ・支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた馴染みの物を持ち込み使用していただき、ご本人が居心地良く生活できるような空間づくりを心がけている。	利用者一人ひとりが、慣れ親しんだテレビ・ラジオ・CDラジカセや大正琴、自分の趣味のビーズ手芸や思い出の写真や砂などを持ち込み、居室の中でも十分楽しくすごせるように、利用者の気持ちに添った居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを活かし、安全に自立した生活を送ることができるよう支援を行い、手すり等の活用ができるよう工夫している。		